安全神話と決別し、原発依存から自然エネルギーへの転換を

美浜原発（後方）が見える場所で、敦賀市議から説明を受ける研修ツアーの参加者（中央に小牧、松葉の両氏ら12日）

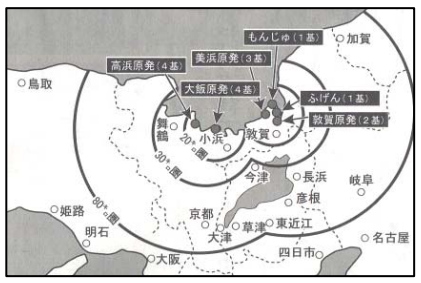
福井原発研修ツアー

福島原発の放射能漏れ事故は、危機収束どころか、避難圏域が拡大され、放射能汚染は太平洋にも広がるなど、深刻さを増しています。こうした事態を招いた責任は、安全神話をふりまき安全対策をなおざりにして闇雲に原発を推進してきた歴代政府と電力会社にあります。原発と放射能に対する不安が広がっている時、14基もの原発が林立する「福井原発をこの目で」と日本共産党湖南地区委員会が12日、研修バスツアーを企画。守山からは小牧一美議員、松葉栄太郎さん、石堂淳吉市委員長らが参加しました。

もし福井で事故が起きたら…

日本には54基の原発がありますが、そのうち14基が若狭湾周辺に集中。しかも福島原発1号機と同様に、運転開始から30年以上経過している老朽化原発が8基もあるのが特徴です。滋賀県とは近距離で13キロ、守山市で60キロ圏域だけに、福島原発と同様規模の事故が福井で起きたら…びわ湖を含めて被害は甚大。それだけに防災計画の抜本的な見直しが求められています。

若狭湾周辺には14基の原発



この日は、万が一の原子力災害発生時に、国・県・関係市町・警察・消防など防災の関係機関が集結し一体となって応急対策を講じるための拠点施設＝敦賀原子力防災センター（オフサイトセンター）で、経済産業省の原子力安全保安院や敦賀市役所の原子力行政・財政担当から実情を聞きました（**写真右下**）。

このセンターには、全国各地の原発稼働状況や周辺の放射線量、風向きなど気象変化にも対応できるモニターリングデータなどが、ハイテク機器を駆使して瞬時に情報管理できるようになっています。

しかし福島事故の場合は実質的に機能しなかったというのが実態。「万が一」を想定して訓練はされているものの、それを上回る過酷な事故は、「安全神話」のもとでは想定していないというわけ。関西電力は震災直後、地域向けに配布したチラシでも「日本海には大きな津波の発生源となる海溝型のプレート境界がないから、若狭湾周辺で大きな津波が生じる可能性は低く、文献などからも周辺で津波による大きな被害記録はありません」と『安全宣言』をしています。この日保安院の説明でも、福島事故の教訓から「二重三重の人災を招かないために」危機意識をもって対応するという姿勢ではなく、依然として安全神話から抜け出せない体質を露呈した感じでした。

「安全神話」から抜け出せない原子力安全保安院…
地元自治体財政も原発依存

また敦賀市からの説明では、電源三法交付金や原発施設の固定資産税だけで市財政の2割以上を占め、そのうえに億単位の寄付を受けるなど財政的にも原発に依存。市民のいのちを守る立場から原発の安全神話と決別する、という立場に立ちきれない対応が目立ちました。

この後、美浜原発や高速増殖炉もんじゅPR館を訪れ説明を受けましたが、いずれも安全神話に固執した内容に終始。エネルギー政策の大転換が必要であることを実感しました。

6月議会で防災計画の見直しを要求　ご意見・ご要望お聞かせ下さい

日本共産党
守山民報

守山市議会議員
こまき一美
TEL・FAX 582-3785
http://komaki.jcp-web.net/

党守山市くらし対策責任者
まつば栄太郎
TEL 584-3077
FAX 584-3466

日本共産党守山市委員会発行　526号　2011・5・18　TEL 583-8552　FAX 583-1098

毎週木曜日　午後5:45～6:45　守山駅で街頭宣伝しています。